

Nikon

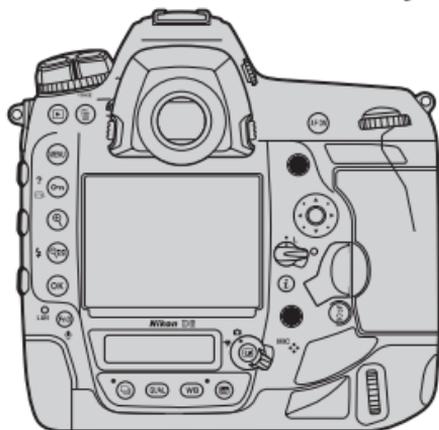


D6 Professional

テクニカルガイド

– 便利な機能編 –

Revision 1.0



目次

準備編 5

複数台のカメラの日時を同期させたい **CHECK IT OUT** ✓ 6

- カメラの日時を同期する方法について 6
- カメラ内蔵の位置情報機能を使用する 8
- 有線 LAN または WT-6 を使用する 10
- Nikon Transfer 2 を使用する 13

撮影画像に位置情報を記録したい 16

位置情報のログを記録したい 19

- ログを記録する 19
- ログを ViewNX-i で開く 23
- 他のカメラで撮影した画像に ViewNX-i で位置情報を付加する 25

画像に IPTC 情報を添付したい 31

- IPTC 情報の編集方法について 31
- XMP/IPTC 作成ソフトウェアを使用して作成したプリセットをカメラに適用する **CHECK IT OUT** ✓ 33

撮影編 37

高画質の画像と、転送に適したファイルサイズの小さな画像を同時に記録したい 38

露出などの設定をワンタッチで切り換えたい 40

- 登録できる機能について 40
- 機能を登録する手順 41
- 使用方法について 43
- おすすめのシチュエーションについて 44

ホワイトバランスを固定して撮影したい	49
● 色温度を設定する	49
● プリセットマニュアルデータを取得・設定する	50
● [オート] または [自然光オート] 設定時にホワイトバランスを 一時的に固定する CHECK IT OUT ✓	53

再生編 55

分割記録した画像の再生に関する

新しい機能を使いたい CHECK IT OUT ✓	56
● 再生するスロットを設定する	56
● 分割記録したもう一方のスロットの画像に 一時的にアクセスする	57
● 分割記録した画像を両方のスロットから一度に削除する	57

必要な画像に素早く印をつけたい.....59

● 撮影画像につける印について	59
● フリック操作で素早く印をつける CHECK IT OUT ✓	61

印をつけた画像だけ再生したい.....63

● 表示の条件を設定する	63
● フィルター再生する	64

画像をトリミングしたい.....65

● 画像モニターに拡大表示している部分をトリミングする	65
● 画像編集メニュー [トリミング] を使用する	66

ネットワーク編 67

自動送信中に特定の画像を最優先で
送信したい **CHECK IT OUT** ✓68

WT-6 を使用する場合に接続する
SSID の周波数帯を選びたい **CHECK IT OUT** ✓69

準備編

複数台のカメラの日時を同期させたい **CHECK IT OUT** ✓

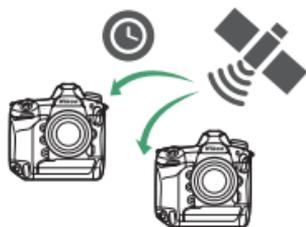
撮影の前には、カメラの内蔵時計を正確に合わせておくことをおすすめします。特に複数台のカメラを使用して撮影する場合、撮影後に画像をパソコンに取り込んで ViewNX-i などでは日時順に表示すれば、撮影日時順で表示できます。

● カメラの日時を同期する方法について

カメラの日時を同期するには、次の方法があります。

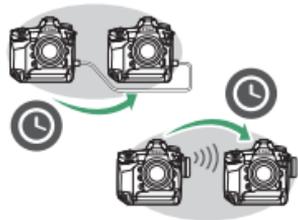
カメラ内蔵の位置情報機能を使用する (📖8)

- カメラに内蔵された位置情報機能を使用すると、現在の位置情報と UTC（協定世界時）を取得できます。測位衛星から取得した日時でカメラの内蔵時計を合わせられます。
- それぞれのカメラで位置情報を取得すれば、同期の操作は必要ありません。
- 他の機器やアプリケーションを使用せず、カメラのみで設定が可能です。



有線 LAN または WT-6 を使用する (10)

- カメラが D6 同士の場合、ネットワークを使用してマスターカメラに日時を合わせられます。
- イーサネットケーブルを使用して有線 LAN で接続するか、ワイヤレストランスミッター WT-6 を使用して無線で接続して時計合わせを行います。



Nikon Transfer 2 を使用する (13)

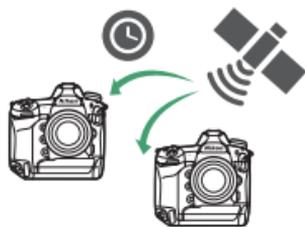
- 使用しているパソコンの時刻にカメラの日時を合わせられます。
- Nikon Transfer 2 の時刻合わせの機能に対応しているカメラであれば、複数の種類のカメラの日時を同期させることができます。



複数台のカメラの日時を同期させたい

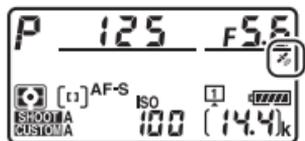
● カメラ内蔵の位置情報機能を使用する

セットアップメニュー [位置情報 (内蔵)] を使用すると、現在の位置情報と UTC (協定世界時) を取得できます。測位衛星から取得した日時の情報でカメラの内蔵時計を合わせられます。



1 セットアップメニュー [位置情報 (内蔵)] の [位置情報記録] で [する] を選ぶ

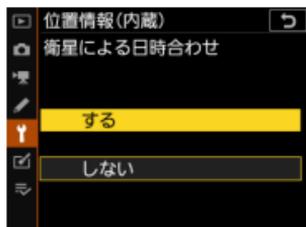
- 位置情報の取得を開始します。
- 位置情報取得中は上面表示パネルの衛星受信状態マーク  が点滅します。位置情報が確定すると、 が点灯します。



2

セットアップメニュー [位置情報 (内蔵)] の [衛星による日時合わせ] で [する] を選ぶ

- ・上記の操作を行う前に、上面表示パネルで  が点灯していることを確認してください。
- ・取得した日時情報でカメラの内蔵時計が合わせられます。
- ・衛星による日時合わせは、次にカメラの電源スイッチを ON にするタイミングで行われます。



3

セットアップメニュー [地域と日時] の [現在地の設定] で現在のタイムゾーンを選ぶ

- ・現在地の設定は自動では行われません。手動で設定してください。
- ・設定したタイムゾーンに合わせて表示される時間が変更されます。



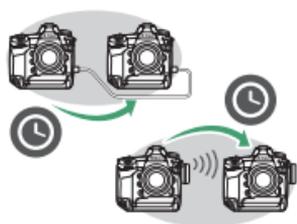
位置情報機能についてのご注意

位置情報機能を使用する場合の詳しい注意点については「[撮影画像に位置情報を記録したい](#)」(P.16) もご覧ください。

複数台のカメラの日時を同期させたい

● 有線 LAN または WT-6 を使用する

カメラが D6 同士の場合、イーサネットケーブルで2台のカメラを接続するか、別売のワイヤレストランスミッター WT-6 を装着するとネットワークを使用してカメラの日時を同期できます。



- 一方をマスターカメラに設定し、もう一方をリモートカメラに設定すると、リモートカメラがマスターカメラの日時情報を取得して内蔵時計を合わせます。
- 日時情報にはセットアップメニュー **〔地域と日時〕** の全ての内容が含まれます。
- カメラはイーサネットケーブルで2台のカメラを接続するか、マスターカメラおよびリモートカメラ両方に WT-6 を装着してください。
- カメラ内蔵の位置情報機能を有効にして **〔衛星による日時合わせ〕** を **〔する〕** に設定している場合、カメラで取得した日時が優先されます。ネットワークを使用して日時を同期する場合、**〔衛星による日時合わせ〕** を **〔しない〕** に設定してください。

- 1** セットアップメニュー [有線 LAN/ワイヤレストランスミッター] の [有線 LAN/WTの機能] で [有効] を選ぶ

マスターカメラとリモートカメラの両方で行ってください。



- 2** [有線 LAN/ワイヤレストランスミッター] の [ハードウェアの選択] でカメラの接続方法を選ぶ

- 有線 LAN を使用している場合は [有線 LAN]、WT-6 を使用している場合は [無線 LAN] を選んでください。
- マスターカメラとリモートカメラの両方で行ってください。

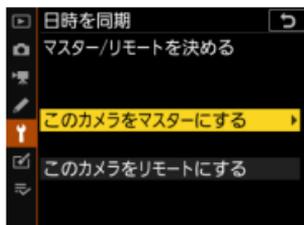


複数台のカメラの日時を同期させたい

3

カメラをマスターカメラにするかリモートカメラにするかを設定する

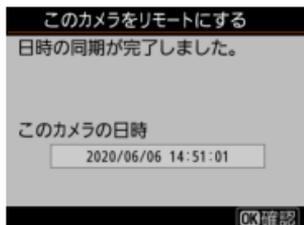
- ・ [接続設定] の [日時を同期] で設定します。マスターカメラは [このカメラをマスターにする] に、リモートカメラは [このカメラをリモートにする] に設定します。
- ・ 日時同期待機状態になります。
- ・ 現在カメラで設定されている日時が表示されます。



4

リモートカメラの **OK** ボタンを押す

- ・ リモートカメラからマスターカメラにネットワーク接続し、日時の設定を同期します。
- ・ 日時の同期が成功すると、リモートカメラにメッセージが表示されます。



5

マスターカメラおよびリモートカメラで **OK** ボタンを押す

- ・ 日時同期待機状態が解除され、[接続設定] 画面に戻ります。
- ・ 複数のカメラで日時を同期する場合は全てのカメラで手順 1～5 を繰り返してください。

● Nikon Transfer 2 を使用する

ニコン純正パソコン用ソフトウェアの View NX-i や Capture NX-D に搭載されている Nikon Transfer 2 を使用すると、パソコンの日時設定とカメラの内蔵時計を同期できます。



- View NX-i および Capture NX-D はニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。

<https://downloadcenter.nikonimglib.com/>

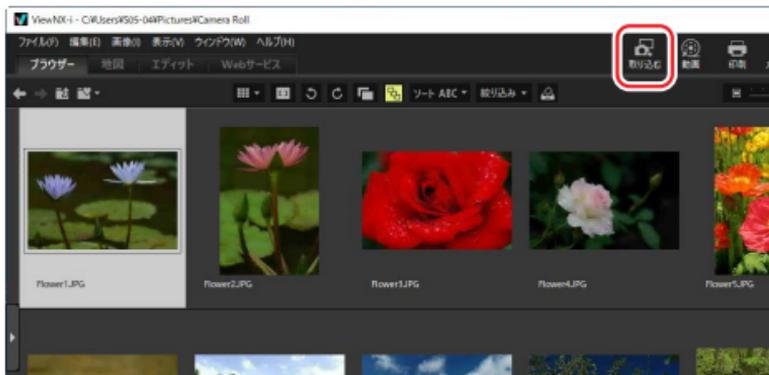
- Nikon Transfer 2 を使用すると、D5 や D4S などとも日時を合わせることができます。

パソコンと時刻を同期する場合のご注意

- パソコンの時刻は、ネットワークを使用して時刻を自動取得する設定にしてください。パソコンの時計を手動設定している場合、日時が正確ではないことがあります。
- 時刻を自動取得する方法は、お使いのパソコンの説明書をご覧ください。
- カメラ内蔵の位置情報機能を有効にして [衛星による日時合わせ] を [する] に設定している場合、カメラで取得した日時が優先されます。パソコンの時刻と同期する場合は、[衛星による日時合わせ] を [しない] に設定してください。

複数台のカメラの日時を同期させたい

- 1 カメラを付属の USB ケーブルでパソコンに接続後、ViewNX-i または Capture NX-D を起動し、[取り込む] をクリックする



- ここでは ViewNX-i を使用しています。
- [取り込む] をクリックすると Nikon Transfer 2 が起動します。

2

Nikon Transfer 2 の [環境設定] タブで [カメラ接続時に、カメラの日付と時刻をコンピューターに合わせる (機種限定)] にある [同期] ボタンをクリックする



- 日時の同期が成功するとダイアログが表示されます。[OK] ボタンを押すと Nikon Transfer 2 の画面に戻ります。



- 複数のカメラの時刻を同期したい場合、全てのカメラで手順 1 ~ 2 を繰り返してください。

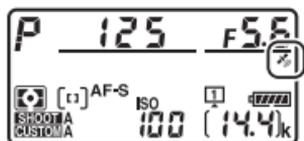
撮影画像に位置情報を記録したい

カメラ内蔵の位置情報機能を使用すると、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）を記録できます。画像に位置情報を記録しておけば、ViewNX-iなどで地図上に撮影場所を表示することが可能です。

- セットアップメニュー [位置情報 (内蔵)] の [位置情報記録] で [する] を選ぶと位置情報を取得して画像データに位置情報を記録します。



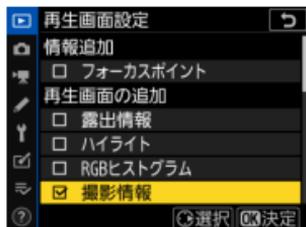
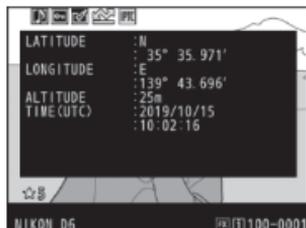
- カメラと測位衛星の通信状態は、上面表示パネルの衛星受信状態マーク  で確認できます。
 -  (点灯)：衛星から測位した緯度、経度、標高の情報が画像に記録されます。
 -  (点滅)：カメラが取得している情報が確定していないため、位置情報は記録されません。 が点灯するまでお待ちください。
 -  (消灯)：測位衛星との通信が2秒以上途絶えると、 が消灯します。この状態で撮影した画像には位置情報は記録されません。ただし、位置情報取得後に消灯した場合は、取得時の位置情報が画像に記録されることがあります。



- 取得された位置情報は [位置情報 (内蔵)] の [情報表示] で確認できます。



- ・カメラの電源を OFF にしても、位置情報機能は無効になりません。位置情報機能を無効にするには、セットアップメニュー [位置情報 (内蔵)] の [位置情報記録] を [しない] に設定してください。
- ・位置情報が取得された状態で撮影すると、画像に位置情報が記録されます。記録された位置情報は画像再生時にマルチセクターの  を押して表示される画像情報で確認できます。
- ・位置情報の画像情報を表示させるには、再生メニュー [再生画面設定] で [撮影情報] および [位置情報] のチェックボックスをオン にしてください。



位置情報機能を使用する場合のご注意

- ・位置情報を記録した静止画や動画などから、個人を特定できることがあります。位置情報を記録した静止画、動画、ログファイルの、他人への譲渡やインターネットなど複数の人が閲覧できる環境への掲載にはご注意ください。
- ・位置情報機能付きカメラを旅行などで外国に持ち込む前に、使用規制の有無を旅行代理店や大使館などでお確かめください。たとえば、中国では、政府の許可なしに位置情報の収集はできません。
- ・中国および中国の周辺国の国境付近では、位置情報機能が正常に機能しない場合があります (2019年12月現在)。

位置情報機能についてのご注意

- ・初めて測位したときや、測位できない状態が長時間経過したとき、バッテリーの交換をしたときなど、位置情報を取得するまで時間がかかることがあります。
- ・測位衛星の位置は常に変化しています。お使いになる場所や時間などによっては、測位に時間がかかったり、測位できないこともあります。
- ・次のような電波を遮断、反射してしまう場所では、測位できなかったり、測位した位置が実際にいた場所と異なることがあります。
 - 建物の中や地下
 - 高層ビルの間
 - 高架の下
 - トンネルの中
 - 高圧電線などの近く
 - 密集した樹木の間
 - 入れ物の中（金属製のカバンなど）
- ・携帯電話など、近くに同じ周波数帯の電波を発生するものや、磁気を発生するものがある場合は、測位できないことがあります。
- ・測位衛星からの電波の誤差が大きい場合、最大で数百メートルの誤差を生じることがあります。
- ・動画の場合は、動画撮影開始時に取得した情報を記録します。
- ・画像ファイルに記録されている位置情報は、取得した位置情報の精度および測地系の違いなどによって、実際の撮影地点と異なる場合があります。

位置情報のログを記録したい

位置情報の記録（ログ）を、ログファイルとして保存できます。ログファイルを ViewNX-i で開くと、その日に移動した軌跡をパソコンでたどることができます。記録した位置情報は、他のカメラで撮影した画像に付加することも可能です。

ログファイルについて

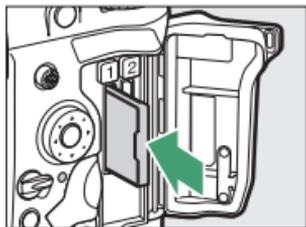
- ログファイルはメモリーカードの「NIKON」フォルダー内にある「GNSS」フォルダーに保存され、Nyymmddx.log という名前が付けられます。yy にはログを取得した年の西暦下 2 桁が入り、mm には月が、dd には日が、x には 0～9、A～Z の識別番号が入り、拡張子は「.log」になります。
- NMEA フォーマットに準拠しています。ただし、全てのソフトウェアやカメラでの表示を保証するものではありません。

● ログを記録する

ログを記録する手順は次のとおりです。

1 スロット 1 にメモリーカードを入れる

ログファイルはスロット 1 に入れたメモリーカードに記録されます。メモリーカードがスロット 2 だけに入っている場合、ログファイルは記録できません。

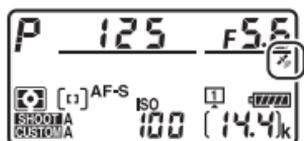


位置情報のログを記録したい

2

セットアップメニュー [位置情報 (内蔵)] の [位置情報記録] で [する] を選ぶ

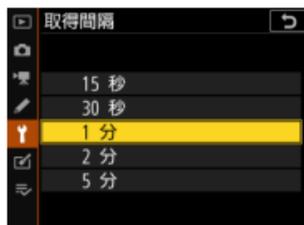
- ・ 位置情報の取得を開始します。
- ・ 上面表示パネルの衛星受信状態マーク  が点灯していることを確認してください。



3

セットアップメニュー [位置情報 (内蔵)] の [ログ取得] で取得間隔と取得時間の長さを設定する

- ・ [取得間隔] でログを取得する間隔を 15 秒、30 秒、1 分、2 分、5 分から設定します。



- [取得時間] でログを取得する時間の長さを6時間、12時間、24時間から設定します。



ログ取得間隔と長さの設定のヒント

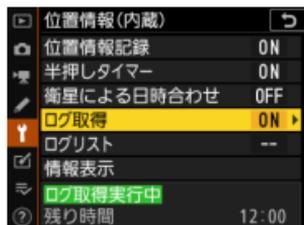
- ログ取得の間隔は移動する速さによって変更することをおすすめします。たとえばヘリコプターや列車などの速い乗り物を使用する場合は間隔を短く、徒歩で移動する場合は間隔を長めに設定します。
- 一度ログ取得を開始すると、終了するまで間隔と長さを変更できません。変更が必要な場合、一度ログ記録を終了し、設定を変更してから再度ログの取得を開始してください。ログファイルは新しく作成されます。

位置情報のログを記録したい

4

セットアップメニュー [位置情報 (内蔵)] の [ログ取得] で [ログ取得実行] を選んで **OK** ボタンを押す

- ・ ログの記録が設定した間隔と長さで開始されます。
- ・ ログ取得中は、[位置情報 (内蔵)] 画面に残り時間が表示されます。
- ・ ログ取得中に [ログ取得実行] を選んでマルチセレクターの **▶** を押すと、ログ取得の終了や一時停止 / 再開ができます。



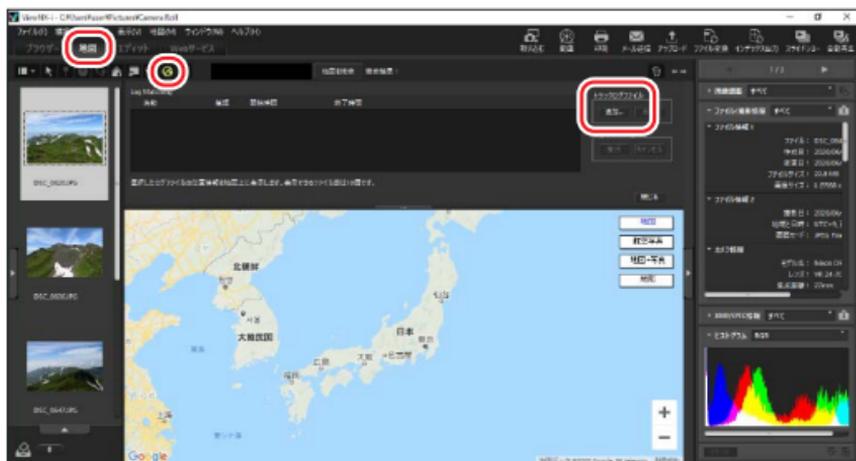
ログ取得についてのご注意

- ・ 日時が設定されていない場合、ログ取得はできません。
- ・ カメラの電源を OFF にしたり、半押しタイマーがオフになっても、ログを取得し続けます。操作中のバッテリー切れを防ぐため、十分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- ・ ログ取得時間内でも、次の場合にログ取得が終了します。
 - バッテリー残量がなくなったとき
 - バッテリーを取り外したとき
 - セットアップメニュー [位置情報 (内蔵)] の [位置情報記録] を [しない] にしたとき
- ・ 位置情報の測位ができずに、ログの取得が途絶えている間は、ログは記録されません。

● ログを ViewNX-i で開く

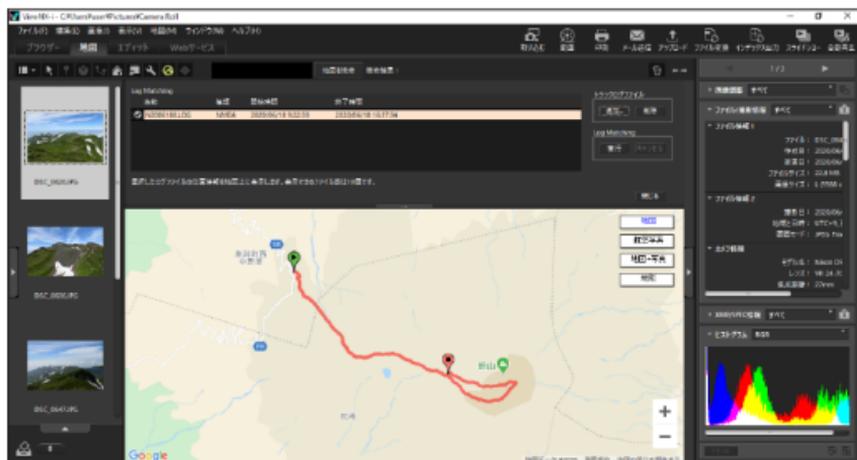
保存した位置情報のログファイルを ViewNX-i で開くと、移動の軌跡を確認できます。

- ・ ログファイルはあらかじめカードリーダーなどを使用してパソコンにコピーしてください。
- ・ ViewNX-i の [地図] タブで  アイコンをクリックして表示される [トラックログファイル] で [追加] ボタンをクリックすると、ログファイルを読み込みます。



位置情報のログを記録したい

- ログファイルを読み込むと、取得したログの軌跡が地図上に表示されます。

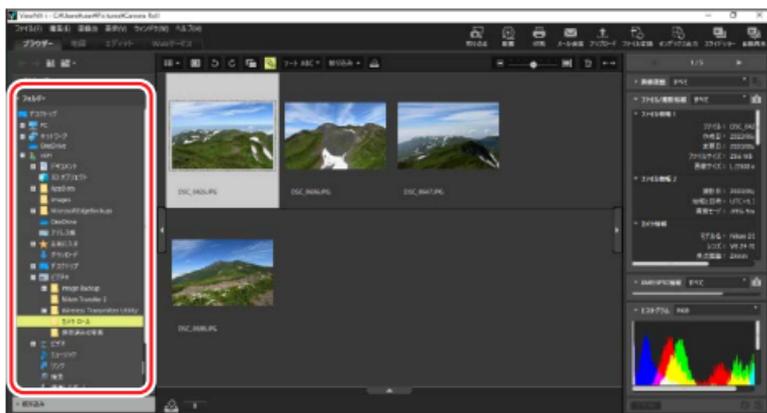


- 地図上に📍で表示されている場所がログ取得を開始した位置、📍で表示されている場所がログ取得を終了した位置です。

● 他カメラで撮影した画像に ViewNX-i で位置情報を付加する

例えば D6 と D5 を併用して撮影していた場合、D6 で取得した位置情報を使用して、撮影時間をもとに D5 で撮影した画像に位置情報を追加することができます。

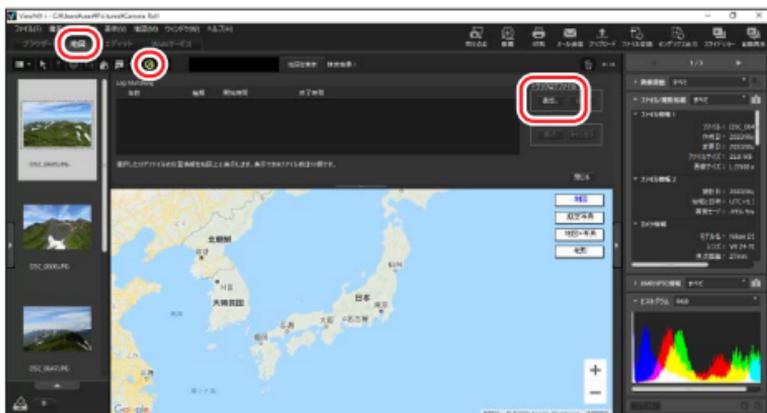
- 1** 位置情報を付加したい画像が入ったフォルダを選ぶ
[ナビゲーション] パレットにある [フォルダー] から D5 で撮影した画像が入ったフォルダを選びます。



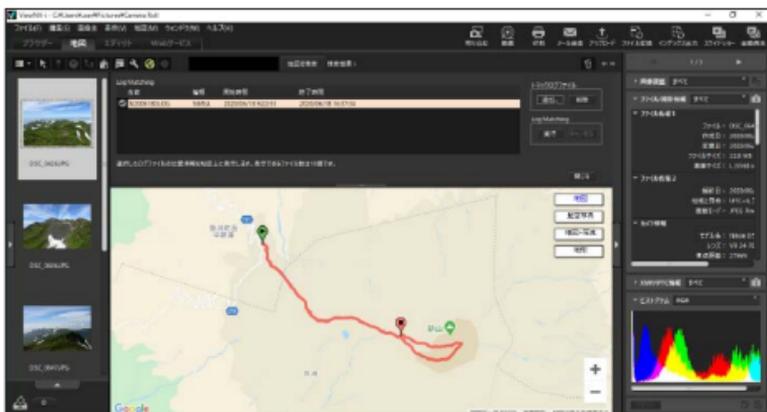
位置情報のログを記録したい

2 ViewNX-i にログファイルを読み込む

[地図] タブで  アイコンをクリックして表示される [トラックログファイル] で [追加] をクリックします。



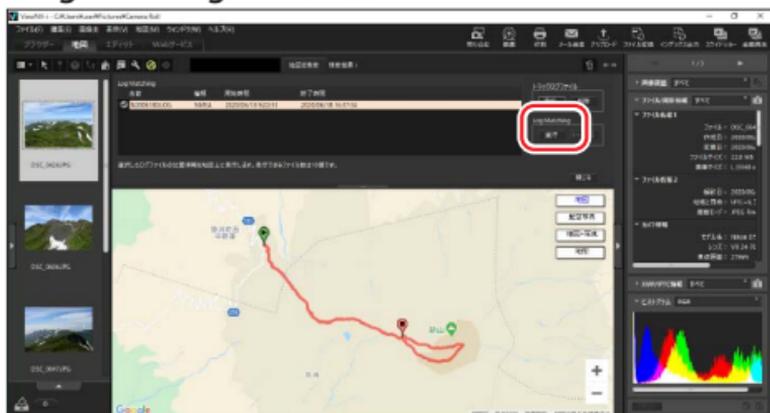
D6で取得したログファイルを選び、[開く] をクリックするとログファイルが読み込まれ、ログの軌跡が地図上に表示されます。



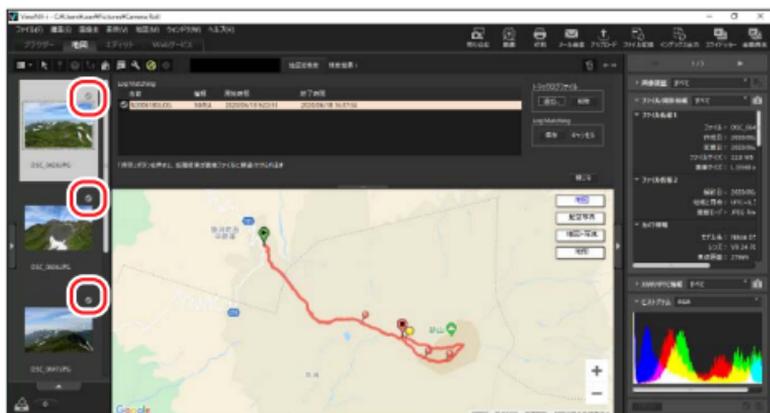
3

Log Matching を開始する

[Log Matching] で [実行] をクリックします。



手順2で読み込んだログファイル取得中の時間に撮影された画像にはチェックマーク☑が表示され、地図上にピン📍が表示されます。初期設定では、画像の撮影日時にもっとも近い時間に記録された位置情報を画像に割り当てます。

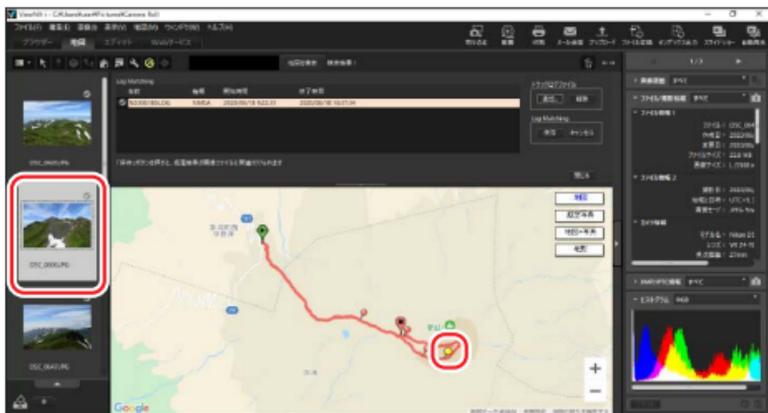


位置情報のログを記録したい

4

画像の位置情報を確認する

サムネイルで画像を選ぶと、画像に割り当てられた位置情報のピンが黄色で表示されます。



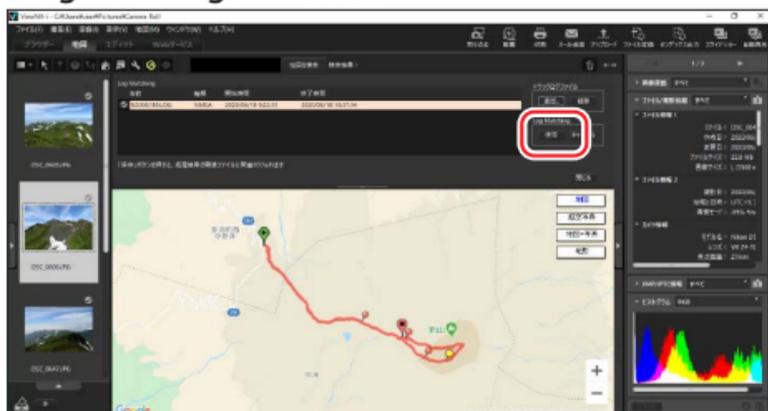
位置情報を付加したくない画像がある場合

サムネイルのチェックマーク をオフ にすると、その画像には位置情報が付加されません。

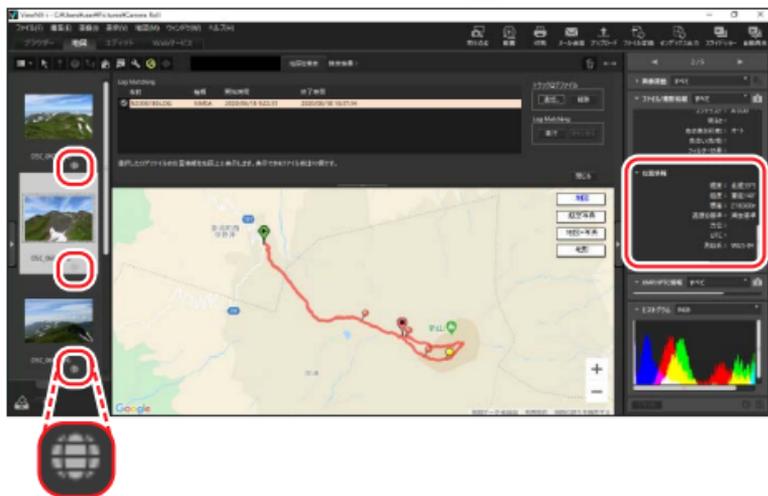
5

画像に位置情報を付加する

[Log Matching] で [保存] をクリックします。



表示されたダイアログで [はい] をクリックすると、画像に位置情報が付加されます。位置情報が追加された画像のサムネイルには、位置情報アイコンが表示されます。



位置情報のログを記録したい

ViewNX-i での位置情報の操作について

ViewNX-i を使用すると、地図上で場所を確認しながら画像の位置情報を調整することができます。詳しくは ViewNX-i のヘルプをご覧ください。

画像に IPTC 情報を添付したい

撮影した画像に IPTC 情報を添付できます。

● IPTC 情報の編集方法について

画像に添付する IPTC 情報を編集・登録するには、次の方法があります。

カメラで編集する

セットアップメニュー [IPTC] の [編集と登録] で IPTC プリセットの新規作成または編集が行えます。



HTTP サーバーモードで編集する

このカメラのネットワーク機能である HTTP サーバーモードを使用すると、「文字情報編集」でパソコンまたは iOS、Android 端末から、IPTC プリセット、画像コメント、著作権情報の入力ができます。



IPTC Preset Manager で編集する

ニコン純正の IPTC プリセット登録用ソフトウェア IPTC Preset Manager を使うと、パソコンで IPTC プリセットを作成できます。作成した IPTC プリセットをカメラに登録すると、編集した IPTC 情報を画像に添付できます。



- IPTC Preset Manager は、ニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。

<https://downloadcenter.nikonimglib.com/>

- バージョン 1.2 以降の IPTC Preset Manager をお使いの場合、NMS 形式（拡張子 .nms）に加えて XMP 形式の XMP/IPTC プリセット（拡張子 .xmp）も保存できます。
- IPTC Preset Manager で編集できる IPTC の項目は、カメラと同じ 14 項目です。

XMP/IPTC 作成ソフトウェアを使用して作成したプリセットをカメラに適用する (📖33)

他社製の XMP/IPTC 作成ソフトウェアを使用して作成した XMP/IPTC プリセットをカメラに読み込んで登録することもできます。

- 他社製の XMP/IPTC 作成ソフトウェアを使用する場合、ニコンの IPTC Preset Manager で編集可能な 14 項目以外にも設定が可能です。

● XMP/IPTC 作成ソフトウェアを使用して作成したプリセットをカメラに適用する

CHECK IT OUT ✓

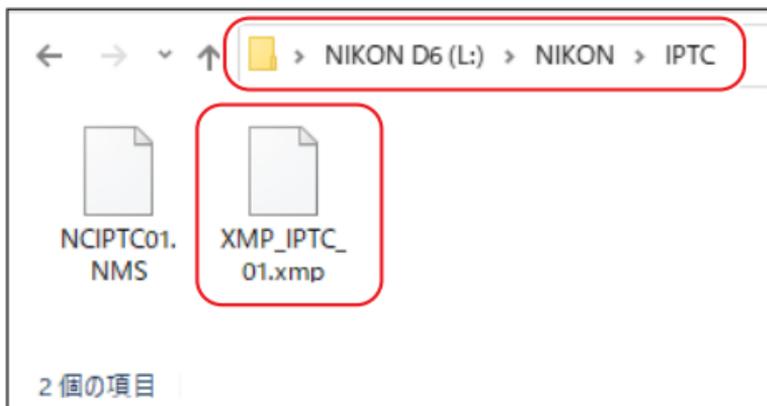
XMP/IPTC 作成ソフトウェアを使用して作成した XMP/IPTC プリセットをカメラに読み込ませる手順は次のとおりです。

1 XMP/IPTC プリセットをパソコンに保存する

保存方法についてはそれぞれの XMP/IPTC 作成ソフトウェアのヘルプなどをご覧ください。

2 メモリーカードに IPTC プリセットをコピーする

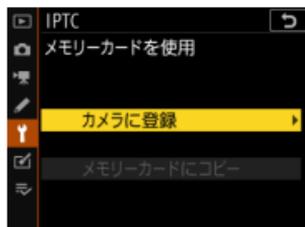
図のようにメモリーカード内にフォルダーを作成し、「IPTC」フォルダー内に XMP/IPTC プリセットのデータ（拡張子 .xmp）をコピーしてください。



画像に IPTC 情報を添付したい

3 [カメラに登録] を選ぶ

- XMP/IPTC プリセットをコピーしたメモリーカードをカメラに挿入し、セットアップメニュー [IPTC] の [メモリーカードを使用] でスロットを選んで [カメラに登録] を選んで  を押します。
- IPTC プリセット選択画面が表示されます。



4 カメラに読み込む IPTC プリセットファイルを選ぶ

- 手順2でコピーした IPTC プリセットファイルが表示されます。
- IPTC プリセットを選んで  を押します。



5

登録先を選ぶ

- 登録先は P-11 から P-13 までの 3 か所を選べます。



- ☞ を押すと名前を入力画面が表示されます。名前を入力して OK ボタンを押すと、選んだ IPTC プリセットがカメラに登録されます。



6

画像に添付する IPTC プリセットを選ぶ

- セットアップメニュー [IPTC] の [撮影時自動付加] を選んで ☞ を押し、手順 5 で登録した IPTC プリセットを選びます。
- その後撮影した静止画には、選んだ IPTC プリセットが添付されます。



XMP 形式の XMP/IPTC プリセットを使用した場合のご注意

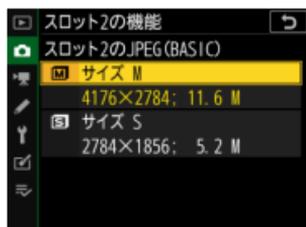
- カメラに登録した XMP 形式の XMP/IPTC プリセットは、メモリーカードに保存することはできません。
- XMP/IPTC プリセットを画像に添付した場合、再生画面の撮影情報には IPTC 情報は表示されません。

撮影編

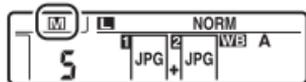
高画質の画像と、転送に適したファイルサイズの小さな画像を同時に記録したい

2つあるメモリーカードスロットの両方を使って画像を記録するには、静止画撮影メニュー [スロット2の機能] を使用します。D6 では既存の [RAW+JPEG 分割記録] に加え、[JPEG+JPEG 分割記録] にも対応しています。

- [JPEG+JPEG 分割記録] はスロット1には **QUAL** ボタンや静止画撮影メニューで設定した画像サイズおよび画質モードの画像が記録されます。スロット2には画質モードが [BASIC]、画像サイズが [サイズ M] または [サイズ S] の JPEG 画像が記録されます。
- たとえば、スロット1には高画質の画像、スロット2にはより早く転送するのに適したファイルサイズの小さな画像を記録する、という使い方が可能です。
- スロット2に記録する画像サイズは、[JPEG+JPEG 分割記録] を選んで  を押すと設定できます。



- スロット2に記録する画像サイズは背面表示パネルの左側に表示されます。



分割記録時の便利な機能について

- 分割記録した画像を再生する場合のスロットを設定したり、一時的にもう一方のスロットにアクセスすることができます ([図56](#))。
- 分割記録した画像は、個別に削除するか両方のスロットから同時に削除するかどうかを選べます ([図57](#))。

見て聞くマニュアル

CHECK IT OUT ✓

Digitutor

「JPEG+JPEG 分割記録」の詳しい使い方は、YouTube | デジチューター / Digitutor - ニコンチュートリアルチャンネルで紹介しています。



[D6 NPS \[#1\] D6 の新機能を使用したよりスムーズな画像転送「①画像サイズの異なる JPEG 画像の同時記録設定」](#)

露出などの設定をワンタッチで切り換えたい

カスタムメニュー f3 [カスタムボタンの機能] で任意のボタンに [撮影機能の呼び出し] を割り当てておくと、ボタンを押している間、露出モードや測光モードなどの設定が、あらかじめ登録した内容に変更されます。高速シャッターと低速シャッターを瞬時に切り替えたいときなどに便利です。



● 登録できる機能について

次の機能を登録できます。

露出モード

シャッタースピード (露出モード **S**、**M**)

絞り値 (露出モード **A**、**M**)

露出補正

ISO 感度設定

ISO 感度

感度自動制御

測光モード

ホワイトバランス

AF エリアモード

AF ロックオン

横切りへの反応

被写体の動き

AF-ON

● 機能を登録する手順

1 カスタムメニュー f3 [カスタムボタンの機能] で任意のボタンを選んで **OK** ボタンを押す



- **Pv** ボタン、**Fn1** ボタン、**Fn2** ボタン、**AF-ON** ボタン、サブセレクター中央、縦位置 **AF-ON** ボタン、レンズのフォーカス作動ボタンに割り当てられます。
- 機能は複数のボタンに割り当てることができますが、登録できる設定は1通りのみです。

2 [撮影機能の呼び出し] を選んでマルチセレクターの **OK** ボタンを押す



3 設定を登録したい項目を選び、チェックボックスをオン **OK** にする



- 項目を選んで **OK** (⏏) ボタンを押すとチェックボックスのオン とオフ が切り換えられます。
- チェックボックスをオン にした項目のみ設定を登録できます。

4 設定を登録したい項目を選び、を押す

- それぞれの項目の設定内容が表示されます。
- 登録したい内容を選び、 ボタンを押すと設定を変更できます。
- [AF-ON] はチェックボックスのオン とオフ の切り替えのみです。 を押しても設定値の変更画面は表示されません。



現在の設定値を登録する

[現在の設定を登録] を選んで  ボタンを押すと、現在カメラで設定している値が各項目の設定値として登録されます。

5 ボタンを押す

全ての項目を設定したら  ボタンを押して決定します。

● 使用方法について

〔撮影機能の呼び出し〕を割り当てたボタンを押すと、登録した設定値に切り替わります。

- **CHECK IT OUT** ✓ 登録した露出モードによっては、〔撮影機能の呼び出し〕を割り当てたボタンを押している間にメインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルを回してシャッタースピードや絞り値を変更できます。
 - シャッタースピードや絞り値を登録する項目に含めている場合、変更した値が新たに登録されます。
 - 露出モードが **P** の場合はプログラムシフトを行えます。
 - カスタムメニュー b4 [露出補正簡易設定] が [しない] 以外の場合、コマンドダイヤルを回して露出補正を行えます。
 - 絞り値を登録していても、装着しているレンズによっては登録した値にならないことがあります。
- セルフタイマー作動中、ライブビュー撮影時、動画撮影時、オートブラケティング撮影時、多重露出撮影時は、ボタンを押しても設定の呼び出しは行われません。
- [AF-ON] をオン にしている場合、割り当てたボタンを押すと同時にピント合わせも行います。
- [AF エリアモード] でダイナミック AF または 3D-トラッキングを登録していても、AF モードが **AF-S** の場合は AF エリアモードは切り替わりません。

露出などの設定をワンタッチで切り換えたい

● おすすめのシチュエーションについて

この機能は次のようなシチュエーションで使用すると便利です。

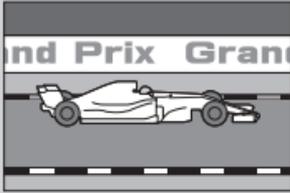
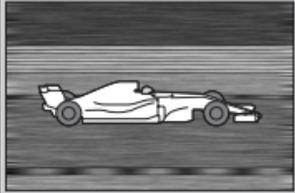
明るい場所と暗い場所が混在する場合

デーゲームのサッカースタジアムや野球場など、日なたと日陰が混在するような場所で撮影する場合、日陰用の設定を登録しておけば、被写体が日陰に入ったときもワンボタンで設定を切り換えられます。

	通常撮影時	日陰撮影用
露出モード	M	M
シャッタースピード	1/2000 秒	1/2000 秒
絞り値	F2.8	F2.8
ISO 感度	100	800
感度自動制御	しない	しない
ホワイトバランス	晴天	晴天日陰

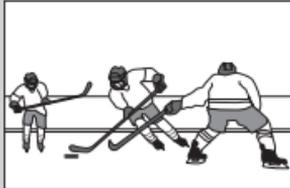
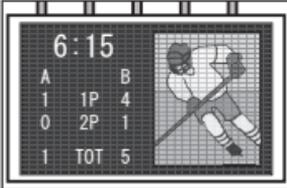
シャッタースピードを素早く切り替えたい場合

モータースポーツやスピードスケートなどの競技を撮影する場合、低速のシャッタースピードを登録しておけば、ワンボタンで流し撮り撮影の設定に切り換えられます。

	通常撮影時	流し撮り用
		
露出モード	M	M
シャッタースピード	1/2000 秒	1/125 秒
絞り値	F2.8	F11
ISO 感度	200	200
感度自動制御	しない	しない

露出などの設定をワンタッチで切り換えたい

頻繁に電光掲示板を撮影する場合、電光掲示板撮影用の低速シャッタースピードを登録しておく便利です。

	通常撮影時	電光掲示板用
		
露出モード	M	M
シャッタースピード	1/2000 秒	1/60 秒
絞り値	F2.8	F2.8
ISO 感度	6400	100
感度自動制御	しない	しない
ホワイトバランス	AUTO _o	晴天

露出モードを素早く切り替えたい場合

通常撮影する場合は露出モード **M** で細かく設定を行い、ボタンを押している間だけ露出モードを **P**、**S**、**A** に切り替えたり、ISO 感度を感度自動制御に切り替えて露出をカメラまかせで撮影することもできます。屋内撮影時に照明が変わったときや、屋外撮影時に天候によって露出が変わったときなどに便利です。

一時的にシルエット画像を撮影したい場合

逆光時に意図的にシルエット撮影したい場合、測光モードをマルチパターン測光からハイライト重点測光に変更する設定を登録しておくくと便利です。

	通常撮影時	シルエット撮影用
		
露出モード	M	A
シャッタースピード	1/500 秒	—
絞り値	F2.8	F2.8
ISO 感度	100	100
測光モード	マルチパターン測光	ハイライト重点測光

レンズを頻繁に交換する場合

使用するレンズによって撮影時の設定が異なる場合、サブで使用するレンズ用の設定を登録しておくくと便利です。

露出などの設定をワンタッチで切り換えたい

【撮影機能の呼び出し】について

- 次の場合、設定の登録および呼び出しはできません。
 - 非 CPU レンズまたは PC Micro-Nikkor 85mm f/2.8D を装着した場合
 - 絞りリングのある CPU レンズを装着し、カスタムメニュー f6 [コマンドダイヤルの設定] にある [絞り値の設定方法] を [絞りリング] に設定している場合
 - 絞りリングのある CPU レンズを、絞りリングを最小絞りにせずに装着した場合
- セットアップメニュー [リモコン (WR) の Fn ボタンの機能] で別売のワイヤレスリモートコントローラーの **Fn** ボタンに割り当てすることもできます。

ホワイトバランスを固定して撮影したい

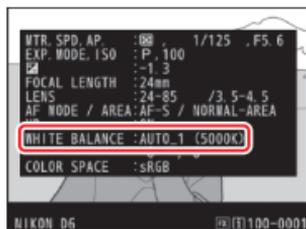
ホワイトバランスは、初期設定の **AUTO**（オート）でほとんどの光源に対応できます。光源が安定している場所で撮影した画像が思い通りの色味にならない場合、以下の方法でホワイトバランスを固定して撮影することをおすすめします。

● 色温度を設定する

光源の状況に合わせて、**[電球]** や **[晴天]** など **AUTO** 以外の設定にすると、思い通りの色味になりやすくなります。**[色温度設定]** で色温度を直接設定すれば、細かい調整が可能です。



- ・ **[色温度設定]** で色温度を調整する場合、まずは一度 **[オート]** または **[自然光オート]** で撮影することをおすすめします。再生画面の撮影情報にある **[撮影基本情報]** ページでカメラが判断した色温度の値を確認でき、**[色温度設定]** で色温度を調整する場合に参考にできます。



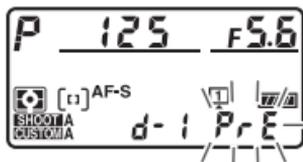
- ・ 撮影情報の **[撮影基本情報]** ページを表示するには、再生メニュー **[再生画面設定]** で **[撮影情報]** および **[撮影基本情報]** のチェックボックスをオン にしてください。
- ・ 再生画面で **[再生]** を押すと、撮影情報画面が表示されます。

● プリセットマニュアルデータを 取得・設定する

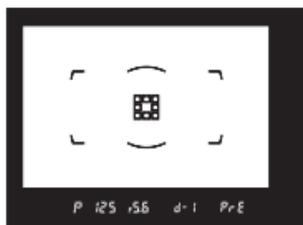
プリセットマニュアルでは、撮影する照明下で取得したホワイトバランスデータを使用してホワイトバランスを設定します。撮影済みの画像を使用して設定することも可能です。

ファインダー撮影で取得する **CHECK IT OUT** ✓

ホワイトバランスを[プリセットマニュアル]に設定して、**WB** ボタンを押し続けるとプリセットマニュアル取得モードになります。プリセットマニュアル取得モードでは、上面表示パネルとファインダー内表示に **P-rE** の文字が、背面表示パネルに **PRE** が、それぞれ数秒間点滅します。



- プリセットマニュアル取得モードになると取得エリアが図のように表示され、中央に固定されます。これまでは無彩色（白またはグレー）の被写体をファインダーいっぱいにとらえる必要がありましたが、D6 ではピンポイントで取得できます。
- 撮影時に使う照明の下で、用意した無彩色の被写体を取得エリアに合わせてシャッターボタンを全押しすると、プリセットマニュアルデータが取得されて保存されます。
- **WB** ボタンを押すとプリセットマニュアル取得モードを終了します。



ライブビュー撮影で取得する

ライブビュー時にプリセットマニュアルデータを取得すると、画像モニターに表示されている被写体の白、またはグレーの部分でプリセットマニュアルデータを取得できます（スポットホワイトバランス）。

- ホワイトバランスを【プリセットマニュアル】に設定して、ライブビュー表示中に **WB** ボタンを押し続けるとプリセットマニュアル取得モードになります。画面の **PRE** が点滅中に、画像モニターにタッチすると、タッチした位置に が移動してプリセットマニュアルデータを取得して保存されます。🔍 ボタンを押すと、 で選択された部分が拡大します。
- **WB** ボタンを押すとプリセットマニュアル取得モードを終了します。



取得したプリセットマニュアルデータを確認する

静止画撮影メニューまたは動画撮影メニュー【ホワイトバランス】の【プリセットマニュアル】を選ぶと、プリセットマニュアルデータを確認できます（d1～d6）。ライブビューで取得したプリセットマニュアルデータにはタッチした部分の が表示されています。



撮影済み画像のホワイトバランスデータをコピーする

メモリーカード内の画像で使用されたホワイトバランスを、プリセットマニュアルデータとしてコピーできます。思い通りの色味で撮れた画像を使用できます。

- ・ 静止画撮影メニューまたは動画撮影メニュー [ホワイトバランス] の [プリセットマニュアル] で d1-d6 からコピー先を選び、マルチセレクターの中央ボタンを押します。



- ・ [使用する画像の選択] を選んで  を押すと、メモリーカード内の画像が一覧表示されます。ホワイトバランスデータをコピーしたい画像を選んで  ボタンを押すと、ホワイトバランスデータがコピーされます。



● 【オート】 または 【自然光オート】 設定時にホワイトバランスを一時的に 固定する **CHECK IT OUT** ✓

ホワイトバランスを【オート】または【自然光オート】に設定していても、ホワイトバランスを一時的に固定できます。たとえば、被写体となる選手が会場に設置されているLEDアドボードの正面に移動するとLEDアドボードの影響により色味が変わってしまうことがあります。ホワイトバランスを固定すれば色味が変わることを防げます。



LEDアドボードの影響を受けない場所では、白いユニフォームを白く撮影できます。



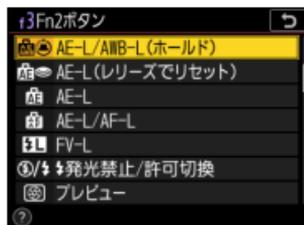
背景にLEDアドボードがある場合、LEDの影響で主要被写体が色かぶりすることがあります。



被写体がLEDアドボード正面に移動する前にオートホワイトバランスロック (AWB-L) をして撮影すると、ユニフォームが白いまま撮影できます。

ホワイトバランスを固定して撮影したい

カスタムメニュー f3 [カスタムボタンの機能] で任意のボタンに [AE-L/ AWB-L (ホールド)] を割り当てておくと、ボタンを1回押すと露出値とホワイトバランスが固定されます。



- ・オートホワイトバランスロック (AWB-L) を使用してホワイトバランスが固定されるのは [オート] または [自然光オート] の場合のみです。直前に撮影した画像のホワイトバランスに固定されます。
- ・ [AE-L/AWB-L (ホールド)] を割り当てたボタンを再度押すか、半押しタイマーがオフになるとロックが解除されます。

連続撮影中のホワイトバランスについて

リリースモードが **CH**、**CL**、または **Q** の静音連続撮影のときにホワイトバランスを [オート] または [自然光オート] に設定している場合、オートホワイトバランスロックを使用しない場合でもホワイトバランスは1コマ目撮影時の設定に固定されます。

再生編

分割記録した画像の再生に関する 新しい機能を使いたい **CHECK IT OUT** ✓

静止画撮影メニュー [スロット 2 の機能] を [RAW+JPEG 分割記録] または [JPEG+JPEG 分割記録] に設定すると、2 枚のメモリーカードに分割記録できます (☞38)。分割記録した画像の再生に関する機能が新しく追加されています。

● 再生するスロットを設定する

再生メニュー [分割記録時の再生スロット] で、分割記録したファイルを再生する場合にどちらのスロットを再生するか設定できます。たとえば [スロット 2] に設定しておけば、分割記録した画像を撮影後に再生するときは必ずス

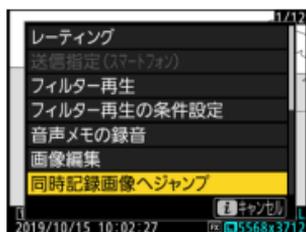


ロット 2 に記録された画像が再生されます。スロット 2 に転送用のサイズの小さな画像を記録している場合、毎回スロットの切り換え操作を行うことなく素早く送信指定を行えます。

● 分割記録したもう一方のスロットの画像に一時的にアクセスする

再生画面で **i** メニューの [同時記録画像へジャンプ] を選ぶと、もう一方のスロットに記録した画像を再生できます。

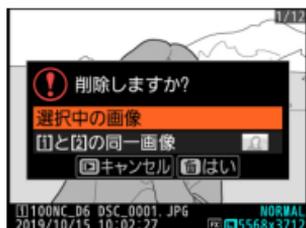
- たとえば再生スロットをスロット2に設定しているときに、スロット1に記録した大きいサイズの画像でピントを確認したいという場合に一時的に素早く画像を切り換えることができます。
- 撮影や画像編集を行うと、[分割記録時の再生スロット] で設定したスロットでの再生に戻ります。



● 分割記録した画像を両方のスロットから一度に削除する

分割記録した画像は、個別に削除するか両方のスロットから一度に削除するかを選べます。

- 再生画面で同時記録または分割記録した画像を選び **⏏** (FORMAT) ボタンを押すと、削除確認の画面が表示されます。
- [選択中の画像] を選んで **⏏** (FORMAT) ボタンを押すと、現在選ばれている画像のみ削除されます。
- [**[1]**と**[2]**の同一画像] を選んで **⏏** (FORMAT) ボタンを押すと、両方のスロットから画像が削除されます。



分割記録した画像を効率よく再生したい

- 再生メニュー [W スロット同時削除の設定] で削除確認の画面を設定できます。
 - [する (選択肢あり)] : 削除確認の画面を表示して、同時削除するかどうかを選べます。[選択中の画像] と [1] と [2] の同一画像] のどちらにカーソルが当たっているかを設定することもできます。
 - [する] : 削除確認の画面で [1] と [2] の同一画像] が固定で表示され、[はい] を選ぶと同時削除を行います。
 - [しない] : 同時記録していない画像と同じ削除確認の画面が表示されます。画像の同時削除は行いません。



見て聞くマニュアル

Digitutor

再生メニュー [分割記録時の再生スロット] の詳しい使い方は、[YouTube | デジチューター / Digitutor - ニコンチュートリアルチャンネル](#)で紹介しています。



[D6 NPS \[#1\] D6 の新機能を使用したよりスムーズな画像転送 \[②再生するスロットを指定する\]](#)

必要な画像に素早く印をつけたい

撮影した画像に印をつけておくと、後で画像整理がしやすくなります。D6 では、再生時にフリック操作をするだけで素早く印をつけられるようになりました。

● 撮影画像につける印について

D6 で撮影した画像に付加できる印には、次のものがあります。

プロテクト

画像を誤って削除しないために保護できます。画像をプロテクトするには次の方法があります。

- ・ **Fn** (🔒/?) ボタンを押す
- ・ 再生時のフリック操作に割り当てる



レーティング

選んだ画像にレーティングを設定します。レーティングを設定するには次の方法があります。

- ・ **i** メニューの [レーティング] で設定する
- ・ 再生時のフリック操作に割り当てる
- ・ **Fn3** ボタンまたは縦位置 **Fn** ボタンにカスタムメニュー f3 [カスタムボタンの機能] で [レーティング] を割り当て、再生画面で割り当てたボタンを押す



必要な画像に印をつけたい

送信指定

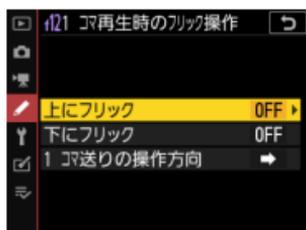
スマートフォンやパソコンに送信する画像を指定できます。

- ・ **i** メニューの [送信指定 (スマートフォン)]、[送信指定 (PC)]、[送信指定 (有線 LAN/WT)] で指定する
 - ・ 再生時のフリック操作に割り当てる*
 - ・ **OK** ボタンを押しながらマルチセレクターの中央ボタンを押す*
 - ・ **Fn3** ボタンにカスタムメニュー f3 [カスタムボタンの機能] で [送信指定 (有線 LAN/WT)] を割り当て、再生画面で **Fn3** ボタンを押す*
- ※ 有線 LAN またはワイヤレストランスミッターでカメラをパソコンや FTP サーバーと接続している場合のみ送信指定可能です。



● フリック操作で素早く印をつける **CHECK IT OUT** ✓

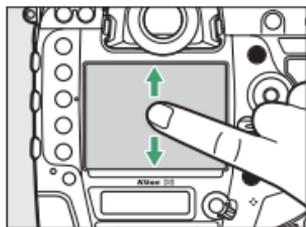
カスタムメニュー f12 [1 コマ再生時のフリック操作] の [上にフリック] および [下にフリック] では、1 コマ表示時に画像モニターを上下にフリックした場合の動作を割り当てられます。



項目	内容
レーティング	レーティングを画像に設定できます。レーティングの値は、[上にフリック] または [下にフリック] で [レーティング] を選び、マルチセクターの  を押してあらかじめ設定しておきます。
送信指定 (有線 LAN/WT)	有線 LAN またはワイヤレストランスミッターでカメラをパソコンや FTP サーバーと接続している場合、画像を送信指定できます。
プロテクト	画像をプロテクトします。
音声メモ	音声メモを録音または再生できます。
設定しない	画像モニターを上下にフリックしても機能しません。

必要な画像に印をつけたい

画像モニターを上または下にフリックすると、画像に割り当てた印を付加できます。[レーティング]、[送信指定 (有線 LAN/WT)]、[プロテクト] を割り当てている場合、もう一度同じ方向にフリックすると設定した内容をキャンセルして元に戻します。



フリックの上下に別の動作を割り当てる

[上にフリック] と [下にフリック] には異なる動作を割り当てられます。たとえば [上のフリック] に [プロテクト]、[下のフリック] に [送信指定 (有線 LAN/WT)] を割り当てておけば、指を上下に動かすだけで「プロテクトしてから送信指定」という動作を行うことができます。

見て聞くマニュアル

Digitutor

カスタムメニュー f12 [1 コマ再生時のフリック操作] の詳しい使い方は、YouTube | デジチューター / Digitutor - ニコンチュートリアルチャンネルで紹介しています。



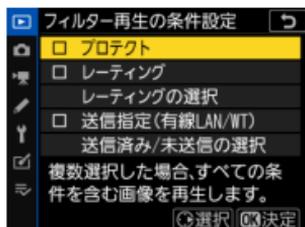
[D6 NPS \[#1\] D6 の新機能を使用したよりスムーズな画像転送 \[③再生画面のフリック操作で送信指定を可能にする\]](#)

印をつけた画像だけ 再生したい

再生時の **i** メニューで [フィルター再生] を選ぶと、条件に当てはまる画像のみを表示します。

● 表示の条件を設定する

再生メニューまたは再生時の **i** メニューで [フィルター再生の条件設定] で条件を設定できます。項目を選び、マルチセクターの  を押すとオン とオフ を切り換えられます。



項目	内容
プロテクト	オン <input checked="" type="checkbox"/> にすると、プロテクトされた画像を再生対象にします。
レーティング	オン <input checked="" type="checkbox"/> にしたレーティングの画像を再生対象にします。
送信指定 (有線 LAN/WT)	<ul style="list-style-type: none">・ [送信済みの画像] をオン <input checked="" type="checkbox"/> にすると、有線 LAN またはワイヤレストランスミッター WT-6 を使用して接続しているパソコンまたは FTP サーバーに送信済みの画像を再生対象にします。・ [未送信の画像] をオン <input checked="" type="checkbox"/> にすると未送信の画像を再生対象にします。・ 両方をオン <input checked="" type="checkbox"/> にすると、送信指定した全ての画像が表示対象になります。

● フィルター再生する

iメニューで [フィルター再生] を選ぶと、[フィルター再生の条件設定] でオン にした項目に全て当てはまる画像が表示されます。

- フィルター再生時は、画像モニターの周りに白枠が表示されます。
- もう一度 [フィルター再生] を選ぶとフィルター再生を解除します。



条件に合う画像のみをコマ送りで表示する

カスタムメニュー f6 [コマンドダイヤルの設定] の [サブコマンドダイヤルで画像送り] で [レーティング] または [プロテクト] を設定し、再生時にサブコマンドダイヤルを回すと条件に合う画像だけがコマ送りで表示されます。

画像をトリミングしたい

撮影した画像をカメラでトリミングできます。

● 画像モニターに拡大表示している部分をトリミングする

再生時の **i** メニュー [簡易トリミング] を使用すると、カメラの画像モニターに拡大表示された部分だけをアスペクト比（縦横比）4：3 で切り抜いて別の画像として保存できます。トリミング後の仕上がりがわかりやすく、簡単にトリミングが行えます。

- **Q** ボタンまたは **Q** (⚡) を押すか、画像モニターをピンチイン/ピンチアウトして画像を拡大/縮小表示できます。
- マルチセクターを押すか、画像をスライドすると範囲を移動できます。
- **i** ボタンを押すか、画像モニターの **i** アイコンをタッチしても **i** メニューを表示できます。[簡易トリミング] を選んで **OK** ボタンを押すとトリミングした画像が記録されます。
- 撮影情報の表示画面が RGB ヒストグラムの場合、[簡易トリミング] を行えません。



● 画像編集メニュー【トリミング】を使用する

画像編集メニューの【トリミング】を使用すると、いろいろなアスペクト比で切り抜くことができます。編集画面では、トリミング範囲の黄色い枠が表示されます。

- ボタンまたは  を押し、切り抜く範囲を変更できます。
- メインコマンドダイヤルを回すと、アスペクト比を変更できます。横位置で撮影した画像を縦位置のアスペクト比で切り抜くことや、縦位置で撮影した画像を横位置のアスペクト比で切り抜くこともできます。
- マルチセレクターを押して切り抜く範囲を移動します。
- トリミング画像の画像サイズは編集画面の左上に表示されます。画像サイズは、トリミングする範囲とアスペクト比（横：縦）により変わります。
-  ボタンを押すとトリミングした画像が記録されます。



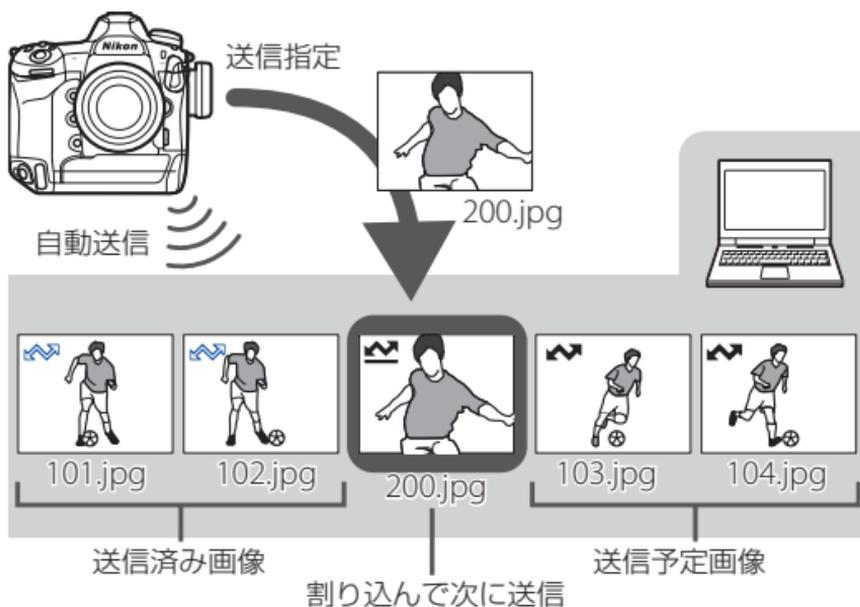
トリミング画像についてのご注意

- トリミング画像の画質モードは、元画像の画質モードが RAW を含む画質モードのときは **[FINE ★]** になり、JPEG のときは元画像と同じ画質モードになります。
- 元の画像とは別に、新しい画像としてメモリーカードに記録されます。
- トリミング後の画像サイズによっては、拡大表示できなくなります。

ネットワーク編

自動送信中に特定の画像を最優先で送信したい **CHECK IT OUT** ✓

内蔵無線 LAN または有線 LAN、ワイヤレストランスミッター WT-6 を使用してカメラとパソコンを接続して自動送信している場合、手動で送信指定を行うとその画像が優先的に送信されます。手動で送信設定する方法については、[「送信指定」\(P.60\)](#) をご覧ください。



WT-6 を使用する場合に接続する SSID の周波数帯を選びたい **CHECK IT OUT** ✓

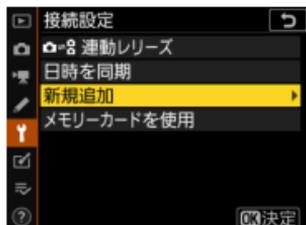
D6 にワイヤレストランスミッター WT-6 を装着してネットワークに無線接続する場合に、接続する SSID の周波数帯（2.4GHz または 5GHz）を選べます（ファームウェア C:1.10 以降）。周波数帯を選んで接続するには、次の手順で行います。

1 セットアップメニュー [有線 LAN/ワイヤレストランスミッター] にある [オプション] の [接続先の周波数帯選択] を選ぶ



- [2.4GHz] または [5GHz] に設定すると、選んだ周波数帯の SSID のみに接続できます。
- [2.4GHz/5GHz] に設定すると、両方の周波数帯の SSID が表示されます。

2 セットアップメニュー [有線 LAN/ワイヤレストランスミッター] にある [接続設定] で [新規追加] を選ぶ

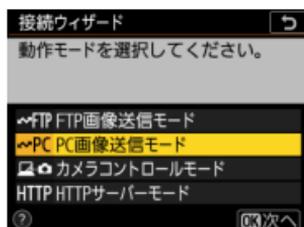


3 [接続ウィザード] を選ぶ



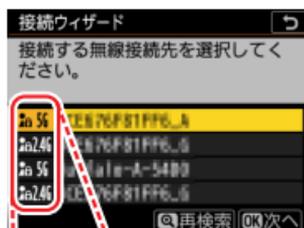
WT-6 を使用する場合に接続する SSID の周波数帯を選びたい

4 動作モードを選び、接続設定名を入力する



5 無線 LAN アクセスポイントとの接続方法として [無線接続先を検索] を選ぶ

- ・カメラ周辺の無線 LAN アクセスポイントを検索して、SSID を表示します。
- ・ [接続先の周波数帯選択] で選んだ周波数の SSID だけが検出されます。周波数帯は SSID の左側に表示されるアイコンで確認できます。
- ・ 2.4GHz と 5GHz 両方の電波を同一の SSID で出力している無線 LAN アクセスポイントの場合、[2.4GHz/5GHz] に設定しているときは WT-6 が認識した周波数帯の SSID が表示されます。



6

画面に従って接続設定を行う

- 接続設定が完了すると、選んだSSIDに接続できます。
- 接続完了後の〔有線LAN/ワイヤレストランスミッター〕画面にも、接続しているSSIDの周波数帯が表示されます。



Nikon